

○ 本校の概要

児童数は252名で、11学級である。教員数は18名で、教員経験年数10年未満が、全体の半数以上である。

- ①児童は、「萩中小10の約束」を基に生活し、規範意識のある行動や授業規律が保たれている。
- ②学校自然園や萩中公園などの自然環境を生かした学習活動、登校班による集団登校や縦割り班活動、ボランティアによる学校支援が充実している。
- ③「理科教育推進拠点校」「令和3・4年度 大田区教育委員会教育研究推進校」として、理科教育の充実を図ることを重点に研究に取り組む。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

| 大項目 | 目標 | 取組内容 | 取組指標 | 取組評価 | 目標に対する成果指標 | 成果評価 | これまでの取組 今後の改善策 | 学校関係者記入欄 | | |
|---|---|---|--|------|--|------|---|----------|----|--|
| | | | | | | | | 評価 | 人数 | コメント |
| プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成 | コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもの力と自信を身に付けます。 | 外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 | 3 | 4: 保護者アンケート「児童は自分の考えを表現している」の肯定的な評価(4段階上位2位)の割合 | 4 | ◎保護者アンケート「児童は自分の考えを表現している」の項目では、4段階評価の上位2位の割合は、前年度82.6%から83.6%となった。 ・児童の発言する機会を意図的に多く設定し、対話を重視してきたことにより、児童は臆することなく自分の考えを自信をもって言うことが日常化してきた。 ・地域の豊かな自然環境を生かして学習活動を行い、第3学年は多摩川の干潟を活用した授業を実施し、学習発表会で保護者等に発表した。 ・ICT支援員と連携して、タブレットを活用し、互いの考えを共有する双方向の学習活動を取り入れたり、タブレットの使用を一律でなく自分で選択して取り組んだりし、児童の使いこなす姿が全校的に見られる。 ・月1回、朝の時間に、「人権教育の時間」を学年単位で必ず実施した。また、人権集会を行い、今年度は、障がい者の当事者に来校いただき、貴重な話を聞くことができた。 ・時期によって、学年別の体育朝会、3学年ごとのマラソン朝会を実施し、体力向上を図る運動や多様な動きをつくるための運動を実施した。 ・「萩中対話タイム(HTT)」は、学年ごとの題材集を作成し、発達段階に応じ、昨年度までの実践をもとにした題材をさらに工夫を加えて、ペアやグループ等では意欲的な話し合いが実現できた。児童は、この萩中対話タイム(HTT)の時間をとても楽しみにしている。 | A | 3 | ・(萩中対話タイムの時間をとても楽しみにしている)自分の考えていることとは違う他者の意見を新しい気づきとして受け取め聞く力が身につくことはとてもいい事だと思います。 ・これからのコミュニケーションツールとして「ICT」「HTT」をバランスよく活用していること評価できる。 ・非常に重要なプランです。特に他人と話すことができる指導が大切だと思います。 ・コロナ禍に、今の日本社会は日本だけでは何も解決出来ない、世界と手を取り合いながら進めなければと熱々感じました。 ・今の子供達が成人する頃になると、それがもっと必要になります。 |
| | | 論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。 | 4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 | 3 | 4:90%以上 | 3: | | B | 1 | |
| | | 学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。 | 4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 | 4 | 3:85%以上 | 2: | | C | 0 | |
| | | 他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。 | 4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。 | 3 | 1:80%未満 | 1: | | D | 1 | |
| | | 体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。 | 4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。 | 3 | | | | | | |
| 【追加】理科教育推進拠点校、推進校として、校内研究と連動した授業改善に励み、理科教育の充実を図る。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 | 3 | | | | | | | | |
| プラン2 学力の向上 | 児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。 | 学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。 | 4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 | 3 | 4: 保護者アンケート「子どもは、勉強が分かり、学力が付いている」の肯定的な評価(4段階上位2位)の割合 | 4 | ◎保護者アンケート「勉強が分かり、学力が付いている」の項目では、4段階評価の上位2位の割合は、前年度84.0%から85.4%となった。 ・個人面談では、大田区学習効果測定の結果などをもとに、児童一人一人のつまずきや、できていることについて丁寧な説明ができた。 ・毎週放課後の算数補習、年6回の土曜日補習を通して、学習への戸惑いのある児童に手厚く指導することができた。 ・授業改善推進プランを各学年、各教科主任が全体に発表して全教員で成果と課題を確認した。ホームページや保護者会を通して、各学年の取組を丁寧に説明した。 ・校内研究では、研究主任が中心となり、「令和3・4年度 大田区教育委員会教育研究推進校」「理科教育推進拠点校」として授業改善に励んでいる。特に、理科授業の充実のために研究授業・協議などを行い、文部科学省の教科調査官を招へいし、研修会を行っている。また、次年度に研究発表会を実施する。 | A | 2 | ・(授業改善プランを発表全教員で成果と課題を確認)直接授業を参観する機会や意見交換をする場がないのでその様子は感じることはできませんが常に研究主任を中心に励んでいるということは心強いです。 ・研究校としての先生方個人の努力を評価します。 ・各々の子供達には個性があり、低学年児童は勉強になかなかついて行かれない子も多いのではないかと思います。その子に合ったきめ細かい指導をお願いします。 ・平均学力の向上も大事ですが、その子の持っている素質を見いだして伸ばしていく教育も大事だと思われます。一つの教科に興味を持つと全体にその子の学力も上がるのと思えます。 ・児童間の学力差に縮めることをお願いします。 |
| | | 算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。 | 4:学期に2～3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。 | 3 | 4:85%以上 | 3: | | B | 2 | |
| | | 学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。 | 4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。 | 4 | 3:80%以上 | 2: | | C | 0 | |
| | | 授業改善推進プランを、授業に生かす。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。 | 4 | 1:75%未満 | 1: | | D | 1 | |
| | | 【追加】学年ごとの週ごとの指導計画の作成により、教材研究を行い、組織的に授業改善に取り組む。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。 | 3 | | | | | | |
| プラン3 豊かな心の育成 | 子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。 | 小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。 | 4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 | 4 | 4: 保護者アンケート「児童は元気づく挨拶をしている」と回答した割合(4段階上位2位) | 4 | ◎保護者アンケート「自分からすすんで挨拶をしている」の項目では、4段階評価の上位2位の割合は、前年度78.8%から77.8%となった。 ・小中一貫教育の日には、近隣小学校3校と近隣中学校1校により、生活指導上の情報交換を行い、情報共有している。 ・児童メンタルヘルス調査後、該当事項に当てはまる児童と面談を行う。児童に寄り添うことで児童の悩みなどを詳しく知ることができている。 ・校内で毎週木曜日に生活指導連絡会を行い、配慮を要する児童などを報告し合い、全職員で情報共有している。必要に応じて、管理職が面談などを行っている。 ・夏季校内教員研修会で、いじめとはどのようなものか、じっくり考える時間をもち、いじめの未然防止、早期発見・早期解決の重要性を改めて確認できる場となった。 ・日頃からの児童のよりよい人間関係の構築と、修復時の適切な対応について、若手を含め全教員で共通理解した。 ・「萩中10の約束」は児童が完全に理解しているため、児童同士で注意する環境ができています。そのため、約束を守れなかった児童はすぐに担任に連絡が行き、早い段階で指導ができていますので、規範意識を育むことができています。 | A | 5 | ・まちで児童たちから挨拶されることがあった。「自分からすすんで挨拶をしている」ことを実感した。 ・現在、社会では相対して言葉のやり取りが少なく、携帯・ネットによるやり取りが多く肌で感じる感情の伝わりが少なくなっているようです。人が便利さの下に追いやられ本来の心豊かな人の本質を無くしているような気がします。会話が通じる教育をお願いします。 ・(近隣校との生活指導上の情報交換)(配慮を要する児童→面談)(児童同士で注意する環境ができています)(いじめの未然防止 早期発見→早期解決)各家庭でも一日の出来事、いやだったこと、楽しかったことを話しができる時間ができているといいですね、子どもたちが安心して寝られるように。 ・児童1人1人のアイデンティティの生み出す知育の大切にした姿勢が大いに評価できる。 ・先生こそ最大の味方だと思います。 |
| | | 道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。 | 4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。 | 3 | 4:80%以上 | 3: | | B | 0 | |
| | | 学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。 | 4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 | 4 | 2:70%以上 | 2: | | C | 0 | |
| | | 学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。 | 4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 | 4 | 1:70%未満 | 1: | | D | 0 | |
| | | 問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。 | 4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておおた会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。 | 4 | | | | | | |
| 【追加】「萩中小10の約束」の日々の徹底により、規範意識を育む指導を行う。 | 4:「日常的に指導できた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 | 4 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|--|---|---|---|----|---|---|---|--|
| プラン4 体力増進の向上と健康の | スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。 | 「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。 | 4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。 | 4 | 保護者アンケート「教職員は、健康で安全な学校生活を送るための指導をしている。」の肯定的な評価(4段階上位2位)の割合 | 4: | ◎保護者アンケート「健康で安全な生活を送るための指導をしている。」の項目で、4段階評価の上位2位の割合は、前年度97.8%から96.5%であった。 ・養護教諭が進んで、ケガや病気の予防に関する資料を保護者に配布したり、直接児童に指導したりする取組を行っている。 ・休み時間は、教員も校庭に出て児童と運動するなどしてふれあい、児童理解につなげていた。 ・生活リズム調査を学期ごとに1週間に渡って行うことで、児童の生活習慣を把握し、指導や改善に当たることができた。また、望ましい生活習慣への意識が高まった。 | A | 4 | ・休み時間先生が生徒と一緒に運動することなど、子ども達にとって楽しい小学生生活となり、評価できます。ご苦労様。 ・先生とのふれあいは非常良い。 ・(児童の生活習慣を把握→指導、改善)(休み時間のふれあい)体を動かす楽しさを体育の授業だけでなく休み時間を使って先生方が子どもたちとふれあっているのはとてもいい事だと思います。 ・その子の個性に合った文武両道の教育を期待しています。 |
| | | 給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。 | 4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。 | 3 | 4:95%以上 | 3: | | B | 0 | |
| | | 体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。 | 4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。 | 3 | 3:90%以上 | 2: | | C | 0 | |
| | | 【追加】体育授業地区公開講座等を開催し、児童が運動への関心を高めて楽しさを感じ、進んで運動に取り組む意欲を高める。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 | 2 | 2:85%以上 | 1: | | D | 1 | |
| プラン5 魅力ある教育環境づくり | 児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりまします。 | 授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 | 3 | 保護者アンケート「教職員は、子どもの学習意欲を引き出す手だてを工夫している。」の肯定的な評価(4段階上位2位)の割合 | 4: | ◎保護者アンケート「教職員は、子どもの学習意欲を引き出す手だてを工夫している。」の項目で、4段階評価の上位2位の割合は、前年度94.5%から95.3%以上であった。 ・授業力を高めたいという意欲ある教員が多く、先輩教員などから日常的に学んでいる。管理職からは児童の様子を通して指導を行うなどしている。 ・区内研究発表を参観した教員が自校の連絡会で報告したり、校内研修を開催したりし伝達することができた。 ・月1回の特別支援教育校内委員会を行い、サポートルームの巡回教員、スクールカウンセラー、特別支援コーディネーター、養護教諭、各担任、管理職での情報交換を日常的に行うことができた。また、具体的な個別の支援方法を提案したり、職員会議で共有したりして、細かな支援に取り組むことができた。 ・コロナ感染防止対策をしながら、今年度は、一泊の6年移動教室、調理実習、歌唱指導を行うことができた。 | A | 3 | ・一人一人の個性に合った教育を大事にして下さい。 ・(意欲のある教員が多い→校内研修を開催→伝達できた)色々な角度から先生がアプローチをして魅力ある環境づくりが整えられているようで安心です。 ・子ども達の学習意欲の向上に努めていること、評価されまします。※先生方が多くの報告書づくりに追われていると聞く、教育委員会の要請もあるが負荷軽減が必要がある。 ・先生方の指導力を評価する |
| | | 授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。 | 4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。 | 3 | 4:95%以上 | 3: | | B | 1 | |
| | | 各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 | 3 | 3:90%以上 | 2: | | C | 0 | |
| | | 校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。 | 4:月1回以上行った。 3:学期に2～3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。 | 4 | 1:85%未満 | 1: | | D | 1 | |
| プラン6 なつて学校とも家庭が一体と | 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。 | 教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。 | 4:月1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。 | 4 | 保護者アンケート「学校は、教育方針や教育活動を保護者に分かりやすく伝えている。」の肯定的な評価(4段階上位2位)の割合 | 4: | ◎保護者アンケートにより、「教育方針や教育活動を保護者に分かりやすく伝えている。」の項目で、4段階評価の上位2位の割合は、前年度96.6%から95.3%であった。 ・学校ホームページを最大限に活用し、毎日の教育活動を写真と説明付きで更新してきた。また、コロナ不安で休む児童には、教室の黒板などをライブ配信した。 ・学校生活の様子を毎日記事にして更新した。また、例年のように来校できない保護者や地域の方々に向け、行事の様子や日常の学習の様子を動画で紹介した。 ・地域教育連絡協議会は、予定していた年3回から12月の6年音楽発表会参加と、3学期の授業参観・協議会という開催となった。 ・学校支援地域本部を中心に図書や家庭科、ガーデニングなどのボランティア活動の支援が充実した。また、地域力を生かした活動として6年の「羽田のまち」と題し、歴史の学習を行った。今年度もゲストティーチャーを招き、講演や実技体験を通して学習を深めることができた。 | A | 3 | ・人の教育は、心と言葉で伝える事と思いますが、今の社会には第三の便利な情報伝達が大きくなり、機械(携帯・ネット)の持つ力に人の心が負けているような気がします。地域の中で、心の繋がりを高めなくてはと思います。 ・(学校ホームページを活用→学校生活の様子を毎日更新)コロナ禍で色々な制限がある中微力ではありますが、地域から、これからも支えていきたいと思っています。 ・ホームページが日々更新されていて学校生活がよくわかりました。 ・今年度は地域教育連絡協議会が行われず学校の様子がリアルにはわかりづらかった。ミニ音楽会に参加することができ、児童たちの努力が垣間みえた。 ・子ども達の作文などを読むと地域との繋がりの大切さを感じる。難しいのは保護者と地域との繋がりと感じる。町会、自治会との接触の場を作っていただきたい。 ・コロナの中、地域の役割は非常に少なくなっていると感じる。 |
| | | 地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。 | 4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。 | 2 | 4:95%以上 | 3: | | B | 2 | |
| | | 学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。 | 4:学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。 | 2 | 3:90%以上 | 2: | | C | 0 | |
| | | 【追加】配信メールを活用し、学校からの必要な情報を迅速かつ正確に伝える。また、学級からの学級通信や担任からの電話連絡を日々行う。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 | 3 | 1:85%未満 | 1: | | D | 0 | |

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。